

013年の冬、一匹の猫が私の前から姿を消しました。名前は、ラフィン。雑種の猫で、私のお母さんが高校生だった時にもらい、私のお父さんと結婚する時に一緒に連れて来たらしいです。

私が産まれて初めて家に行くと、ラフィンは私を迎え入れてくれました。幼い頃のビデオを見ると、ほとんどラフィンとのビデオばかりで、ラフィンの上に乗って遊んでいるところや、一緒に寝ているところなど、すぐく仲良しでした。私は6歳になりました。犬を飼いました。

小型の犬だったのでリビングで飼うため、ラフィンが生活するところを寝室に変えました。会えるのは夜だけ。寝る時だけになりました。

私は、行こうと思えばいつでも行けたのに、犬と遊んで行こうとしませんでした。

5年生になったとき、子猫をもらいました。その猫とラフィンは仲が悪くて、会わせることができませんでした。

そして少しずつ猫が増え、三匹になりました。その時ラフィンは、もう23歳。人間で言うとすぐくおばあちゃんです。階段を下りたり上がったりしている姿はもう見えなくて、トイレやご飯は、ラフィンが食べやすいように一室にまとめて置いていました。ラフィンが生活していた部

屋は、寝室から私と妹の部屋にかわりました。

私が中学生になって、勉強するために部屋に行つていすに座ると、必ず足元にラフィンが来て、応援してくれているかのように顔を足にこすつてきます。

そういうラフィンが大好きで、勉強の後の休けいにラフィンと遊ぶのを楽しみに、勉強をがんばったりもしました。

少し寒くなって来た頃、ラフィンは寝たきりになってしまいました。ちよつと前までは部屋に行くところ、「ニャー」と鳴いて近寄って来たのに、もう来てくれません。

元気だったあの頃から寝たきりになった今までは、本当にいっしゅんでした。寒いから、ラフィンが寝ている所に小さなコタツをひいて、毛布をおいて寒くないようにしていました。お父さんが出張に行った次の日、いつものように私はリビングでテレビを見ていました。

すると私たちの部屋から、私を呼ぶお母さんの声が聞こえてきました。急いで行つてみると、お母さんがラフィンをかかえて、ラフィンの名前を呼びながら泣いていました。びっくりした私は、ラフィンを見ました。すると、苦しうに息を切っていました。たまに血をはいて、たまにせきをしていました。私は涙が

止まりませんでした。血を三回はくると、静かに口を閉じて、部屋は、お母さんと妹、そして私の泣き声だけが響いていました。私はラフィンを抱きしめて、のどがかわるくらい泣きました。

あんなに泣くのは初めてというくらい泣きました。お父さんは出張中だったので見届けることは出来なかつたけど、電話をすると、電話の向こうで泣いていました。

ラフィンは幸せだったのでしょうか。幼いときはすぐく仲良く、でも小さい犬や猫が家にやって来たらラフィンにさみしい思いをさせてしまいました。

それでも、ラフィンの人生に私が登場できて、私の人生にラフィンが登場してきてくれて、私はラフィンと過ごした日々は幸せでした。私が伝えたいことは、今日を一杯生きてほしいことです。当たり前前に過ごしていた今までと今が、いつ終わるか誰にも分かりません。

一秒後を後悔しないような人生にしたいし、皆にもしてほしいです。そして、命を大切にしてほしいことです。

どんな小さな生き物でも、私たち人間と同じだけ、命の価値があると思います。そのことを忘れず、自分、他人、動物を大切にしたいです。

中学生の主張

今を大切にすること

きたやま せな 北山 世菜 耐久中学校3年



人権の詩 紹介2

思いやりバランス

津木小学校6年 東野 博人

本当は人つてみんな自分勝手ではないだろうか。だつてやつぱり自分が一番だから。もし、自分のことを気にかけない人がいたとしたらきつと他の人のことも気にかけないだろう。自分より他人のことばかり優先すると、満足感はあるかもしれないがいざという時「ノー」と言えなくなる。思いやりバランス。思いやりなんて人さまさま。



友達

津木小学校6年 中谷 衣代理

「スマイル」いつも笑わせてくれる友達。「だいじょうぶ？」いつも心配してくれる友達。「ごめん」ケン



つなぐ

南広小学校6年 伊藤 巽

手をつなぐ。糸をつなぐ。バトンをつなぐ。電話をつなぐ。命をつなぐ。輪をつなぐ。みんなをつなぐと世界じゅうがつながる。心もつながる。みんな一つの輪になるよ。



かしてもすぐく仲直りできる友達。「おはよう」朝から元気をくれる友達。「ようこそ」転入生を自然に受け入れる私のクラス。仲間。私のまわりには、そしてクラスには、そんな友達、仲間がたくさんいる。こんなすてきな友達を大切にできる人になりたい。親しい友達、親友、信頼し合える友達、信友、心つながる、心友、本当の友達、真友、深いところをつながつている深友、そんな友達をつくりたい。そして私もそんな友達になる。



家族なべ

南広小学校4年 鳥前 貴弘

ぼくんちはなべのよう。ひいばあちゃんはこの家を守ってきたのでだし汁だ。おばあちゃんも家を守ってきたから。いい味の出る。しいたけお父さんはあるじなのでメインのお肉だ。お母さんは。おこるとピリッと。やさしいとあまくなる。ネギ。みお姉はあまりきらわれないので白菜で。かほ姉はがまん強い所があるので。こしが強いうどん。

家族

広小学校6年 谷口 結南

いつも家に帰るとみんながいる。あかるく楽しい「家族」というたからもの。ときには。はりあうことも。それでもやつぱり。家族がいちばん。



友達

広小学校6年 津村 りこ

「おはよう」からはじまる一日。学校でみんなとべんきょうをして休けい中にあそぶ。友達は笑つてやさしい。けどけんかしたときはおこつたりして悲しくなる。友達だから言えること、友達だから言えないこと、いろいろあるけど。友達つて。とっても大切。

